

1. 教育の責任

「他人の行動変容を促す援助者」として栄養教育活動をする際に必要な知識や技術の修得を支援し、そのための教育内容の向上に努めている。

- ・栄養教育論Ⅰ（1年秋学期 92名）
- ・栄養教育論Ⅱ（2年春学期 85名+編入生4名+再履修者5名）
- ・栄養教育論実習Ⅰ（2年秋学期 75名）
- ・栄養教育論実習Ⅱ（3年春学期 70名）

2. 教育の理念

モデル・コア・カリキュラムの管理栄養士の目指す姿のキャッチフレーズ「栄養・食を通して、人々の健康と幸福に貢献する」にあるように、社会に貢献できる管理栄養士の養成に努めている。

3. 教育の方法

1) 講義科目（栄養教育論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

講義科目では、朝倉書店の『栄養教育論』を3年間にわたり使用しており、これにより教科書購入の負担を軽減している。授業ではテキストに加えてワークシートが毎回配布し、PowerPoint 資料も活用している。授業の冒頭では、授業計画の一覧が提示し、前回の内容について振り返りを行う。重要な箇所に関しては、教科書にマーカーで線を引くように指示し、ワークシートにはポイントを書き込むように促している。また、授業終了前には授業内容の確認を行い、知識の定着を促進する工夫をしている。

2) 実習科目（栄養教育論実習Ⅰ、Ⅱ）

次回実習日の1週間前には、e-Campusでお知らせをアップし、学生はそれを自身のPCにダウンロードし、実習終了後に課題ワークシートを提出する形式を採用している。テキストとしては、栄養教育論実習ワークブックと朝倉書店の『栄養教育論』を使用している。

実習Ⅰでは、栄養教育教材の作製や、自分自身の食事調査や生活調査を行い、診断表の作成を課題としている。また、学童期への食育発表をグループワークの課題としている。

実習Ⅱでは、アセスメント結果から問題を抽出し、ロールプレイ演習を行い、初回面談に必要なコミュニケーション技法の習得を目指している。その後、演習を通じて学生自身のコミュニケーション力に関する問題点を討議し、行動科学的な手法やカウンセリング技法を取り入れ、問題解決に向けた実践力を身につける支援をしている。

4. 教育の成果

1) 講義科目

学生自己評価によれば、「分析力」、「想像力」、「計画力」、「論理的思考力」において高い水準を示しているが、「コミュニケーション力」に関しては低い水準であり、各設問の平均偏差値は40から50程度であった。

2) 実習科目

春学期および秋学期にわたり、対面での実施が行った。学生が達成した成果物としては以下を挙げる。

- ・学童期への食育講座発表
- ・特定保健指導における個別面接（各30分間）
- ・ライフステージ・疾患別の栄養カウンセリング（各15分間）
- ・各種教材の作成

ティーチング・ポートフォリオ

大学名：大手前大学 所属：健康栄養学部 名前：本多 美預子 作成日：2024年1月10日

これにより、学生は実践的なスキルを身につけ、異なる状況に対応する能力を向上させることができた。特に、実習科目では実際のケースに基づいた対話や教材作成を通じて、臨床的な能力を高める機会を提供できたと考えられる。

5. 改善への努力と今後の目標

PC 必携化以降に入学した学生が 3 学年となったことから、座学や実習において、PC を積極的に活用した課題を増やした。今後は、オンデマンド配信用の授業も、ビデオ編集ソフトを利用してクオリティの高いものを制作したいと考えている。これにより、学習環境の向上を図り、より効果的な教育プログラムを提供できるように努めたい。

【添付資料】

1) 2023 年度春学期授業アンケート集計結果